

城辺町 “ムツウサ効果” 披露

地域資源・しま興し講演

大学研究者ら「病気予防」など

城辺町(仲間克町長)が町活性化の起爆剤として取り組む宮古ピデンス・ピローサ(方言名ムツウサ)の研究成果を披露する「第三回地域資源を活かしたしま興し講演会」が九日午後、マティダ市民劇場で開かれ、大学研究現場での研究成果が披露された。宮古産のピデンス・ピローサに糖尿病予防や胃潰瘍予防、動脈硬化抑制、創傷治癒促進などの効果があることが報告されると、来場者からは興味深げに聞き入っていた。今回は細胞増殖を促進させる生理活性成分・センタウリンが新たに見つかったことも報告された。島内外から多数の人々が来場し、好評を博した。

講演会では、瀬山義幸 増澤幹男北里大学医学部 星薬科大学臨床化学教室 皮膚科診療教授が「むつうさが主成分のお茶による病気の予防」、前里和洋が「宮古島の農業の活性化と地下水保全との共生を目標として」をテーマに講演を行った。

瀬山氏はラットやマウスを使用した実験を通して、宮古ピデンス・ピローサに糖尿病予防、胃潰瘍予防、動脈硬化抑制、創傷治癒促進などの効果があることを解説。糖尿病予防については、β細胞やインスリン分泌を増加させ、血糖値などを下げる作用があると述べた。また、過酸化脂質の量を増加させない抗酸化作用があり、細胞レベルで弾性繊維の障害を防ぐことで動脈硬化を予防することなどを解説。このほか、情報伝達物質に作用し情報伝達を促進、創傷の治癒を促進するセンタウリンという生理活性成分が見つかったことなどを明



宮古ピデンス・ピローサの効果などについて紹介された講演会。マティダ市民劇場

ら宮古ピデンス・ピローサの将来性展望をを行った。開会式では、仲間町長が「宮古産は他の地域産と薬効の差が歴然だという。宮古ピデンス・ピローサの商標をぜひ広げたい」と今後の展開に意欲を見せたほか、尚弘子琉球大学名誉教授が来賓あいさつを行った。